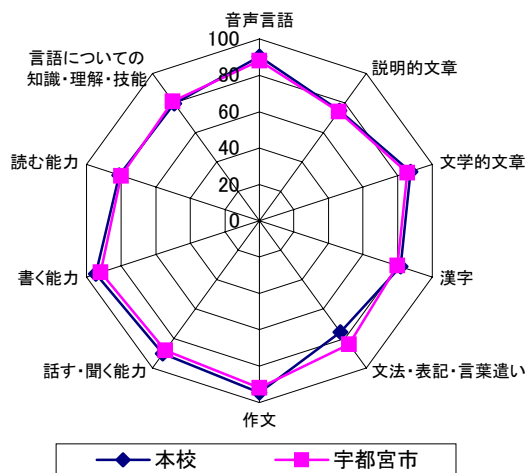


宇都宮市立上河内中学校第1学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	90.3	88.1
	説明的文章	74.8	74.3
	文学的文章	87.3	85.6
	漢字	81.7	79.8
	文法・表記・言葉遣い	75.6	83.9
	作文	94.6	91.9
観点別	話す・聞く能力	90.3	88.1
	書く能力	94.6	91.9
	読む能力	81.1	79.9
	言語についての知識・理解・技能	79.7	81.1



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (90.3%)	・正答率90パーセントを超えたのはかなり聞く力が高い。定期テストや授業中に行ったリスニングテストにおいても正答率が高かった。生徒は授業によく集中しており、教師の指示がほぼ行き届いて、話し合い活動が活発で、友人の意見もよく聞いている。普段から、教師の話を中心に集中して聞くように指導を心がけている。	・今後も教師の話や友だちの意見を集中して聞き、それに対して自分なりの感想や意見、場合によっては反論などできるように指導を徹底していきたい。定期テストやリスニングテストも活用して、聞き取る力を養っていきたい。
説明的文章 (74.8%)	・説明的文章の正答率は70パーセント強と本市をやや上回っている。本年度は『クジラの飲み水』、『食感のオノマトペ』、『ユニバーサルな心を目指して』などの説明文教材を扱ったが、筆者の主張をどのような論法で組み立てているかの理解がやや弱ったように思われる。これは段落相互の関係、話題の展開を巨視的に見る力が十分に育っていないためだと思われる。	・説明的文章に慣れさせるため、教材文以外の文章に触れさせ、それについての自分の意見を書く課題を出していきたいと考えている。また論理的思考を鍛えるため、接続詞の効果的使い片や自己の主張をするための説得力のある具体例などを日常生活で触れる文章から学ばせていきたいと考えている。
文学的文章 (87.3%)	・90パーセントに近い正答率で、本校が取り組んでいる読書推進活動も効果を表していると考えられる。主人公の行動と心情のかかわり方の変容をほぼとらえているが、まだ十分とはいえない。当時の時代背景や主人公の置かれている状況を考えるように指示すると、国語便覧やワークなどを活用して理解を深めていこうとする態度がみられる。	・小説文の主人公の心情描写にアンダーラインを引かせ、その変容が何によってもたらされたのかを熟考させたり話し合わせたりしながら、教師が補正し、読解力の向上に努めていきたい。また、良書を紹介しながら読書活動の推進活動にも協力していきたいと考えている。
漢字 (81.7%)	・漢字を書く力、読む力は、本をやや上回っている。定期的な漢字テストや誤答の改善練習に取り組ませた成果だと考えている。	・教科書の漢字の理解はもちろん、漢字の成り立ちや仕組みについて学ばせ、それを応用できる力をつけさせる。また学年配当の新出漢字やそれを使った熟語作りなども授業に積極的に取り入れたい。
文法・表記・言葉遣い (75.6%)	・、文法の知識・理解は劣っている。主語・述語・修飾語などの文の成分の理解についての基本的理解が不十分と思われる。文図を用いて説明を試みたが、それを演習する時間が不十分であった。単語・文節の違いは多くの生徒が理解していた。	・文図を用いた説明をもとに、問題演習を数多く実施し、2・3年生へつながる「単語のいろいろ」にある品詞分類表の基礎知識を十分に学ばせたい。また、表記、言葉遣いなども名文の視写を通して、言葉の持つ豊かさや多様性について気づかせ、応用できる力をつけさせたい。
作文 (94.6%)	・本市を上回った結果で良好である。作文を書く原動力となったのは、授業ごとに行われた読後の感想文を書くことである。またよく書かれている生徒の作文発表も他の生徒の刺激になったようである。	・作文を書くパターンへの熟知や語彙力を向上させるために、今後とも新聞等の名文を紹介し、視写を継続させていきたい。また学級活動と連携し、行事ごとの体験文を書かせ、添削を試みたいと考えている。添削は、自分の書いた作文の良し悪しを実感できるよい機会であると考えている。